





テクノス通信

vol.52
2013. 9

今月のテーマ 「離床センサー機種選定のポイント」

転倒・転落事故の物的対策としてトップに挙げられる離床センサーですが、ひと言で離床センサーと言ってもたくさんの種類があります。今月号はテクノスジャパンの各種離床センサーの特徴を図表に示してみました。ぜひご参考にして下さい！

センサー種類	設置場所	報知タイミング	対象者の転倒リスク	気づかれやすさ	設置しやすさ
床に足をつけた時 コールマット 	 ベッドサイドの床	遅い	低	△	◎
上体を起こした時 ベッドコール 	 ベッド	早い	高	◎	○
ベッドの端に寄った時 サイドコール 	 ベッドの端	中間	中	◎	○
サイドレールを握った時 タッチコール 	 サイドレール	早い	高	△	○
介助バーを握った時 介助バーコール 	 介助バー	遅い	低	△	○
頭をを起こした時 ピローコール 	 枕の下	早い	高	◎	○
センサーが感知した時 赤外線コール 	 固定スタンドを使用すれば 設置場所を選びません	?	?	?	?

センサーを選択する上で、まず重要なのが「コール（報知）のタイミング」です！

コールマットのような床敷きタイプの設置は簡単・手軽ですので、一番人気の機種となります。ですが、対象者が足をついたタイミングで報知し、駆けつけた時にはすでに歩いていたという動作が早い方には、床敷きタイプよりも更に早い段階での報知できるベッドコールが有効です。また、転倒・転落につながる行動は、対象者の年齢、身体状況などによって違うので、対象者のリスクも考慮しなければなりません。対象者の癖や動きと、センサーそれぞれの検知の仕組みを理解し、適正センサーを選ぶことが重要です。

今月の教えて相談室は
“赤外線センサー設置
ひと工夫”です！



来月号もご期待ください。